

動労千葉破壊の卑劣な陰謀を粉碎せよ!



81.6.19

No. 769

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)〇三三(二七)七二〇七

真相はこうだ! 「転び屋・革マル分子嶋田誠」のウソとデッチ上げを暴く(その1)

われわれは、六月十三日、動労「本部」がコロビ屋・革マル分子嶋田誠をつかい、「動労千葉による集団暴行事件」なるものをデッチあげ、十名の仲間を告訴するという反階級的暴挙にうったえたことに煮えたる怒りを押えることができない。

「本部」革マル反動分子は、一から十までウソとベテンで「事件」をデッチあげ、タレコミ告訴し、警察権力による弾圧と動労千葉破壊を目的意識的に仕組んだのだ。

すでに動労千葉本部闘争委員会は、六月十五日の「声明」をもって、この卑劣で凶悪な動労千葉破壊の陰謀を根底から暴露し、火のような階級的怒りを燃えさせたせて、たたかいに決起することを宣言した。われわれは、この卑劣なデッチあげと反階級的陰謀を完膚なきまでに粉碎するために、ここに、十二日の事実経過を明らかにする。

「六月十二日」の事実経過はこうだ

六月十二日、組合事務所前に「新入組合員歓迎」のため看板を出し、仙台局から帰任・配属される予科生を迎えるべく、組合事務所待っていた動労千葉津田沼支部役員及び組合員十五名は、午前十時〇八分ごろ、石橋事務助役に引卒業され、吉岡正明動労千葉本部執行委員、国労役員に付添われて到着(津田沼駅発十時〇六分発の入区電車に到着)した仙台からの帰任者を組合事務所前で、盛大な拍手で出むかえた。

どうしたわけか、嶋田誠、斉藤吉司らは、十時十六分ごろ到着した入区電車で津田沼構内に現われたのだ。仙台からの帰任者の付添いであれば、すでに先の電車にきているはずなのに、なぜいまごろノコノコと現われたのか。

不審に思った津田沼支部組合員は、組合事務所から出て、彼らに近づき、いまごろやってくる理由はまったくないことを糾したのである。

ところが驚くべきことに、嶋田、斉藤らは津田沼配属の帰任者九名のうち、「本部」指向と目される一名を勝手にこっそりと囲いこみ、わざわざ八名とは別の電車で遅れてやってきた事実が判明したので、何と卑劣な汚いことをやる連中か。

日ごろは動労千葉組合員の前からこそそこそと逃げまわり、権力・当局へのタレコミをこととする札つきマル生分子、職場のきらわれ者、卑劣漢、革マル分子嶋田誠と、これまたデッチあげ「津田沼支部長」でありながら、職場には絶対に寄りつかず、アリバイの指令ですら、当局に電話して当局から「スト指令」を組合員に伝えさせるといふ度しがたい腐敗分子斉藤吉司が、こういう時だけのこのことを現わしたので。この連中に動労千葉組合員の怒りの言葉があげられたのはあまりにも当然である。

彼らは、折から通りかかった出勤、退区の職員や動労千葉の押さえがたい怒りの抗議におびえ、庁舎で津田沼配属の手続をうけるはずの帰任者の一名をも勝手に連れて逃げ帰ろうとすらししたのである。吉岡執行委員は、帰任者は、すでに庁舎に先に入っている仲間と合流させるべきことを言い、自ら庁舎に案内するため、その一名を連れてその場から離れたのである。

嶋田、斉藤らは、時には虚勢をはり、「ふざけたまねをするな」等の挑発的な言辞をはきつつも、動労千葉組合員の正当な怒りとするどい抗議に圧倒され、しだいに後退し、津田沼電車区構内はずれの線路上にさしかかったとき、ついにいたたまれず逃亡せんとしたのである。その際、かねがね悪質卑劣な転び屋嶋田誠は、この時をチャンスとばかりに、折しも雨あがりの路面と線路に足をとられたかのごとく、転び屋の本領を発揮して、自分で転んだのだ。嶋田、斉藤ら三名は、あわてふためいて完全に逃亡し去ったのである。十時二十五分ごろのことである。

コロビ、デッチあげ、タレコミ 告訴を粉碎せよ!

以上が十二日の事実経過の真実である。

この事実経過の一体どこをどう押せば、「十五分にわたるナグルケルの狂乱化した集団暴行」や「顔面等を殴打し、背中を数回にわたり足で蹴りあげ、倒れたところ、背部を足で蹴りあげる等肋骨骨折の傷害を負わせる集団暴行」などということがでてくるのか。まさに一〇〇%のウソと恐るべきデッチあげである。

われわれは、真実を武器とし、絶対に許すことのできないコロビ、デッチあげ、タレコミ告訴の陰謀を断固として粉碎しなければならぬ。